



医療法人コミュニテ風と虹 理事長
堀川公平さん

【企業版ふるさと納税】寄付企業特別インタビュー

誰もが「あたりまえ」に暮らせる 社会の実現のために

「のぞえ総合心療病院」を中心に、多くの施設を運営している「医療法人コミュニテ風と虹」から、これまで2回にわたり、広川町へ企業版ふるさと納税で寄付いただきました。今回、理事長で医師の堀川公平さんに、寄付に至るまでの経緯や思いを伺いました。

「コミュニテ風と虹」の原点

堀川さんは、久留米市内の精神科病院の次男として、幼いころから患者さんに囲まれて育ちました。堀川さんにとって、家の手伝いをしたり遊んだりしてくれる彼らは、ときどき調子が悪くなるのがあきらめだけの「普通の人」。ただ、夕方になると、家ではなく病院に戻っていくことを不思議に感じていたといいます。幼心に抱いた「普通の人なのに、なぜ閉ざされた場所では暮らせないのか」という疑問は、精神科の医師になってからも解けませんでした。

「病院の役割は患者さんを良くすること、管理することではない。精神医学はいつたいつたに貢献しているのか」。その疑問を深めた堀川さんは、その答えを求めてアメリカに渡ります。向かったのは、留学生の多くが目指す研究所や大学ではなく、ある病院。そこで出会ったのが、患者さんの喜怒哀楽を大切に、理想的な治療の姿でした。「一時的に行動を制限されることはあっても、病院内では自由に過ごすことができ、あちこちで医

療者との会話や笑い声があふれていました。隔離されるのではなく、人間性を大切にしたい時間を過ごし、社会へと戻っていく患者さんの姿を見た堀川さんは「健常者でも、ときに感情に揺れることがある。それは病気を抱える人も同じ。日本には当たり前のことを当たり前前にできる環境がない」と、帰国後、理想とする病院づくりを決意しました。

偏見との闘い

まず堀川さんが始めたのは、患者さんと医療者が語り合える関係づくりです。以前は「退院したい」と話す患者さんに、医療者はその状態では無理と一方的に判断するだけでした。しかし、医療者が患者さんと正面から向き合い、「なぜ入院しているの？」と語りかけ、小さな対話を積み重ねることになりました。患者さん自身を尊重し、医療者がその背中を押してあげる治療は功を奏し、入院日数は飛躍的に短縮されました。

しかし、多くの課題に直面します。患者さんと丁寧に向き合うことで負担が増えた看

護師たちが次々と退職。入院日数の短縮は、病院の経営も悪化させました。何より堀川さんを悩ませたのは、患者さんや家族と社会の間にできた高い壁です。患者さんの多くは退院を望んでいたはずなのに、社会に戻る時期が近づいていくなかで不安がります。激しい偏見にさらされ、世間体を気にした家族が受け入れを断ることもありました。

「病院だけが変わってもしょうがない」。そう感じた堀川さんは、患者さんが社会になじむための場づくりを始めます。その一つが、北新代区にあるレストラン「風と虹の店」です。ここで清掃や接客を担うのは患者さんだった人たちですが、こだわったのはあくまですてきなレストランであること。利用客は病気のことも気にせず、料理や会話を楽しみ、その脳では「普通の店員」が働いています。社会の偏見を無理に正そうとはせず、患者さんが社会に自然と溶け込むことで、彼らも自分たちと同じ「普通の人」であることを受け入れてもらう狙いは的中し、オープンから17年経った今も、

客足は絶えません。患者間のサポートも進み、先に社会復帰した人が、後に続く人たちのサポートできるまでになっています。

「病院へ行く」「街へ行く」へ

患者さんが社会に戻るためには、働く場だけでなく、住むための場も必要です。社会生活に徐々に慣れるためのアパートでは、病気に対する偏見から苦情も絶えず、どう対応するかが課題でした。

これを超えるきっかけは、意外なところがありました。それは、地元町内会への加入です。それまで、地域の人たちは病院や患者に良いイメージをもっていないと聞いていました。しかし、町内会の夏祭りや老人会で出会う人たちの多くは、病院の参加を喜んで迎えてくれて、自分たちを理解してくれました。その後、高齢者の困りごとだった犬の散歩やゴミ出しなど、患者さんにもできるお手伝いをしていくうちに、地域とのコミュニケーションが深まりました。

「壁を作っていたのは、実は

こちら側だったのかもしれない。これからは病院づくりにとどまらないまちづくりが必要だ」。堀川さんは令和元年9月、国道3号線沿いに新しく「のぞえ風と虹の街」を開設しました。そこには病院や保育所、共同住宅、公園、レストランなどがあり、患者さんと住民の区別がない街が広がっています。敷地内には緑があふれ、木陰に沿った小径には心地よい風が吹き、ゆっくりとした時間を感じることができます。

誰もが「あたりまえ」に暮らせる社会の実現のため、医療者と患者さんや家族、地域の人で共同体（コミュニティ）をつくり、古い体質や偏見を吹き飛ばす新しい「風」を起し、共同体と社会をつなぐ「虹」の架け橋をかけようと取り組んでこられた堀川さん。その理念と一緒に広川町へ企業版ふるさと納税で寄付いただきました。

広川町では引き続き、協力企業を募集しています。お問い合わせは政策調整課（☎0943・32・0106）へ。



風と虹の店
福岡県八女郡広川町大字新代 1389-734
☎0943-32-2430



のぞえ総合心療病院
福岡県久留米市藤山町 1730
☎0942-22-5311